

■サウジアラビア：国内エネルギー基盤の焦点はガスと太陽エネルギーに

アラブ・プレス・サービス (APS) 社は 2011 年 9 月 26 日、サウジアラビアでは、人口増加とともに国内の石油消費が急増し、将来的に輸出向けの原油確保が難しくなる可能性もあるため、大規模投資により、石油に大幅な依存をしない形での国内エネルギー基盤の拡大が急務だとの論調を示した。同国は、人口増加率が世界的に高く (年 3.8%)、国内の一次エネルギー消費 (石油・天然ガス) は、1993 年の 8,810 万トン/年 (石油換算) から、2011 年には 2 億 1,000 万トン/年 (同) に増加すると予測される。特に、国内の石油消費は 2020 年までに 1 日当たり 400 万バレルを超えると見られ、輸出向けの石油の確保を困難にする恐れもある。こうした国内エネルギー需要の伸びを受けて、同国は、将来的に国内エネルギー消費を天然ガス中心に転換することとしており、あわせて太陽エネルギーにも重点を置くこととしている。すでに同国政府は、もう一段の経済成長、国内経済の多様化、外国投資の増が、雇用創出を狙い、太陽エネルギーを活用することを決めている。このまま太陽エネルギーの利用促進・環境整備が進めば、2015 年までには太陽エネルギーの事業採算性が確保できるようになるとみられる。